

平成24年度愛媛県人権・同和教育研究大会 全体会 教育長あいさつ

平成24年11月14日（水）
於 ひめぎんホール

平成24年度愛媛県人権・同和教育研究大会の開催にあたり、ごあいさつを申し上げます。
本日は、多数の御来賓の皆様をお迎えし、また、県内各地からこのように大勢の方々に御参加をいただき、愛媛県人権・同和教育研究大会が開催できますことを、誠にありがたく、感謝申し上げます。

さて、本年は、全国水平社が結成されて90年の節目の年です。先に朗読されました全国水平社創立大会宣言文は、「人間はいたわるべきではなく、尊敬すべきものである」という精神に立ち、人間の尊厳が謳われております。また、部落差別をはじめとするあらゆる差別に苦しむ人々の解放を目指しており、日本初の人権宣言と言われています。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と締めくくられた宣言には、解放に向けての熱意と希望を感じます。

全国水平社結成の翌年には、愛媛の地でも水平社が結成され、解放に向けての様々な取組が始まりました。そして、これらの運動の広がりや教育・啓発によって、県民の人権意識の高まりとともに偏見や差別の解消が進み、「21世紀は人権の世紀」と言われてはおりますが、今日なお、不当な差別など、様々な人権問題が生じております

とりわけ、いじめの問題が、大きな社会問題として注目されていることは、皆様御承知のとおりであり、いじめが人の命を奪う恐れのある重大な人権侵害であるという認識をもち、安全・安心な学校づくり、地域づくりを進め、社会総がかりで次代を担う子どもたちの健やかな成長を支援していくことが重要です。

郷土の詩人、坂村真民先生の作品に、「すべては光る」という詩があります。

光る 光る すべては光る
光らないものは ひとつとしてない
みずから 光らないものは
他から 光を受けて 光る

という詩であります。この詩には、真民先生が、永遠の生命を持つ大いなるものに守られている自分の存在を知り、人間と人間の光の輪を、大きく広げてゆきたいという思いが込められており、お互いに人間の尊厳や権利を尊び、差別・偏見のない地域社会の実現を目指す人権・同和教育の考え方にも通じるものがあります。

どうか、本大会において、県内各地で取り組まれている研究と教育実践を学びあい、同和問題や北朝鮮の拉致問題など、あらゆる差別・偏見の解消に向け、確かな展望を切り開く大会になりますよう、心より願っております。

最後に、御参会の皆様のみずみずの御活躍と御健勝を祈念いたしまして、あいさつといたします。